



ごあいさつ

国家公務員共済組合連合会 名城病院長

伊藤 隆之

当院は名古屋城天守閣の真南、三の丸で56年目を歩みます。現在5階は総合健診センター、内視鏡センター、第二リハビリテーション室として改装工事を行っています。皆様にご満足いただける施設に生まれ変わります。

当院に奉職して7年目、時に城内を散策し、古の姿に思いを巡らせています。今回は、408年前の築城時の石垣普請を振り返ります。

慶長14年(1609年)11月、家康は駿府にて、大阪方との最終決戦に備え、堅固な城を築くべく、清須より名古屋への移転を決め、西国大名に天下普請を命じた。大切な虎口の枡形は縁ある大名に割り当て、当院の北に位置する二

の丸大手枡形は娘婿の池田輝政(羽柴三左衛門)に築かせた。輝政は関ヶ原の戦いの後、三河吉田より播磨姫路52万石へ転封、さらに備前岡山28万石も領していた。直前に篠山城の総普請奉行を命じられており、他大名より遅れて、慶長15年3月に普請の命を受けた。早急に石切り場を探したと推察される。先行していた清正の丁場近くの三河湾沿岸で幡豆石の採石を行った。さらに姫路城で用いた竜山石を運び、岡山城で用いた花崗岩も用意したと思われる。割り当てられた名古屋城の丁場は、算木積用の隅石を多数必要とした。石垣の最初の根石置きは6月3日に行われ、順調に普請を進め8月8日には石積を終え帰途

についた。

現在、二の丸大手枡形(西鉄門)には重要文化財の二の門が残っています。高麗門で屋根は離宮時代に改修され菊の御紋がみられます。門の南横には竜山石(黄竜山石、凝灰岩)、北横には備前産と思われる花崗岩が据えられています。枡形の石垣は打込接ぎ乱積みで、多数の幡豆石(花崗閃緑岩)が使用されています。黒い石もあり河戸石(砂岩、養老山系)です。隅石を中心に黄竜山石、青竜山石が20数個使われています。同石は姫路城の石垣に用いられているものと同質です。また大きな矢穴もみられ石工の労も伝わります。さらに輝政の刻紋、三左も幡豆石に刻まれています。少し足を延ばし、408年前の一大国家事業の証と対話していただければ幸いです。

今後ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。



入場無料 / 事前申込不要

市民公開講座のお知らせ

名城病院では市民公開講座を毎月定期的に行っています。入場無料ですので、お気軽にご参加ください。

会場
名城病院
地下1階
大会議室
詳細は、ホームページ
でもご確認いただけます

3/14 水 14:00 ~ 14:45

泌尿器科

「前立腺がん健診について」

泌尿器科部長 加藤 誠

3/20 火 14:00 ~ 14:45

消化器内科

「痔がんの話」

消化器内科医師 竹山友章



就
任
挨
拶

副院長就任挨拶

城 浩 介

平成30年1月より名城病院に赴任いたしました、城(たち)浩介と申します。

平成元年、福井大学医学部卒業、一宮市民病院で研修し、名大病院、中津川市民病院に勤務後、平成14年から社会医療法人 愛生会 総合上飯田第一病院で務めておりました。専門は消化器内科です。新任病院に少しでも早く馴染んで、診療を頑張るつもりですので、ご指導よろしくお願いたします。

前病院を退職するにあたり、多くの患者さんやスタッフから、励ましのお言葉や惜別を悲しんでいただくお言葉をいただきました。本当に頭が下がる思いとはこのことだと感じました。医師への信頼の強さ(自分の先生)地域に根付いた病院への信頼(自分の病院)のバランスで、患者さんは病院を選ばれます。自分の先生を信頼していないわけではないですが自分の病院は離れられない、というかたが非常に多くおられました。

それこそ前病院は地域に密着した病院ですが、名城病院は住宅地にないため地域住民がほとんどいないという大きな違いがあります。それは患

者さんの受診にはデメリットとなることもあろうかと思えます。おそらくこれまで多くの先輩方が検討し取り組んでこられたことだと思いますが、遠くても患者さんに足を運んでいただき、満足していただける病院造りが必要かと感じました。それは、通いやすさの提供や、専門性が高い特色のある病院づくりなどがあるでしょう。私も今まで以上に日々研鑽し、先人の御努力同様、そのような病院を目指していきたくと思えます。

私のこれまでの診療に対する姿勢として

- ① 患者さんが、この病院に来てよかったと、この医師に会えてよかったと、気持ちよく帰っていただく
- ② 謙虚さを忘れずに、お互いを尊敬しあう

この2点を心掛けてきたつもりです。

自分にはできないことができる医師やスタッフに対して尊敬し、一人ではなにもできず各部門が助け合って初めて医療ができることを意識する。どんな小さなことでもいいので、相手に尊敬できる部分をみいだして働きたいと思っています。

これは患者さんの満足や職員の満足につながると信じています。患者さんにも職員にも暖かい病院、そんな病院が理想です。

まだ慣れない病院で、つまずくことも多いと思いますが、自分のこれまでの姿勢は維持できるように努力する所存ですので、よろしくお願いたします。

眼
科

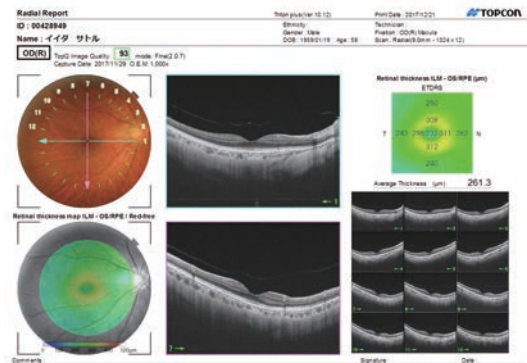
OCT を導入しました

2017年11月下旬に OCT(optical coherence tomography: 光干渉断層計) が当院眼科に導入されました。CTやMRIの様に網膜を断層撮影することで、通常の眼底検査ではわからなかった微細な変化を立体的に検出することができます。特に黄斑前膜おうはんぜんまくや加齢黄斑変性症かうれいおうはんへんせいしょうの詳細な所見が、短時間の撮影で確認することができ、また、視神経線維の密度までかなり詳しく知ることができるため、視野検査で変化がみられないごく初期の緑内障けいれいゆうとうかんあうの発見も可能です。健診で視神経乳頭陥凹拡大を指摘された方に、視野検査をする前に眼底三

次元画像解析を行うことで、緑内障の診断がより正確にできます。

さらに網膜血管をバーチャルリアリティに観察するOCTアンギオグラフィー機能もあります。造影剤を使用しないため、患者さんの身体に負担を与えずに、加齢黄斑変性症の新生血管の状態を始め、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症などの網膜血管障害の進行状態を診断できます。

今までは加齢黄斑変性症の主な治療である抗血管内皮増殖因



子製剤の眼内注射は、当院では行っておりませんでした。本装置の導入により治療効果の判定が正確にできるため、今後は積極的に行っていく予定です。眼底疾患の診断に革命的な進歩をもたらしたOCTをより有効に活用することで、多くの患者さんに貢献すべく努力していきたくと思えます。

眼科部長
飯田了

肺炎球菌ワクチン接種のすすめ

肺炎による死亡率は年々増加し、現在、がん、心臓病に次いで死因の第3位となっています。また、肺炎による死亡者の97.3%が65歳以上の高齢者であることも示されています。

このことから、65歳以上の方にとって肺炎は脅威であり、しかもその度合いが年々高まっていることがわかります。

加齢に伴い、免疫機能が低下し、肺炎などの感染症にかかりやすくなります。高齢者が肺炎を発症して入院すると、日常生活動作(ADL)が低下し、心身の機能が低下してきます。ここでリハビリテーションなど体力の維持がうまく行われないと、認知機能や嚥下機能の低下、寝たきり状態につながり、さらに肺炎を繰り返しやすくなります。

このような負のスパイラルに陥りやすいことが高齢者肺炎の大きな問題であり、高齢者の肺炎では特に初回の発症を予防することが、健康寿命の延伸につながります。

肺炎の原因となる細菌にはたくさんあるものの、肺炎の原因で

最も多く、重症化しやすいものが肺炎球菌です。肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎を予防し、重症化を防ぎます。

したがって以下に該当する方は、肺炎球菌ワクチンの接種が勧められています。

- ・健康でも65歳以上の方
- ・呼吸器の病気(喘息・COPDなど)
- ・心臓・肝臓・腎臓の病気
- ・糖尿病
- ・養護老人ホームや長期療養施設などに居住されている方

肺炎になってから適切な治療を受けて頂くことはもちろん大切ですが、肺炎にならないような日頃の予防策がより重要です。肺炎球菌ワクチンの接種だけでなく、規則正しい生活、うがい、手洗い、マスクの着用、毎年インフルエンザワクチンの接種を心がけましょう。

なお、平成26年10月1日から、国の政令にて高齢者を対象とした肺炎球菌ワクチンが定期接種となり、接種費用の一部が

公費で賄われます。

- ・過去に肺炎球菌予防接種を受けたことがない
- ・各年度中にそれぞれ65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる人

が対象ですが、名古屋市では独自に上記の対象年齢に該当しない65歳以上の方にも費用助成を行っています。

肺炎球菌ワクチンの副反応(副作用)で問題となる方はほとんどいないですが、

接種部位の痛み・赤み・腫れ、筋肉痛、だるさ、発熱、頭痛などの副反応がみられることがあります。過去に予防接種で強い副反応が出たことがある方、肺炎球菌ワクチン接種歴がある方が5年以内に接種すると副反応が強くなる場合がありますので、接種前に医師に伝えることが大切です。ワクチン接種後は安静にして様子をみましょう。気になる症状が出た場合は病院へ連絡をしてください。

当院では、肺炎球菌ワクチン接種は事前予約制で行っています。

接種を希望される方は当院内科外来にお問い合わせの上、予約をお願い致します。

肺炎は日本人の死因の第3位¹⁾



肺炎による死亡者の約95%は65歳以上¹⁾



新任
ドクター
紹介



消化器内科
医師

竹山友章

たけやま ともあき

この度、名城病院消化器内科に赴任となりました竹山友章と申します。消化器の中でも比較的重篤な疾患の多い胆膵領域が専門です。特に膵癌などは早期発見が大切です。適切な検査を適切なタイミングでご案内し、皆様の健康を守ることで貢献したいと考えております。明るく楽しくをモットーに頑張ります。宜しく申し上げます。

病棟紹介

11階病棟

11階病棟は、呼吸器内科・脳神経外科・眼科・歯科口腔外科の混合病棟です。

病床数は47床で、個室9室、3人床2室、4人床8室で構成されています。

呼吸器内科では、肺癌に対する化学療法のための入院や慢性呼吸器疾患のコントロールのための入院の受け入れを行っています。化学療法を受ける方には、副作用の出現時期や使用している薬剤の特性についてパンフレットを用いた指導で知識を得て頂き、できるだけ安心して治療を受けて頂けるような環境作りに努めています。また、嚥下機

能の低下によって誤嚥性肺炎を発症した方も多く入院されます。摂食嚥下認定看護師や言語聴覚士と連携しながら食形態やとろみ剤の使用などの工夫を行い、食べる楽しみをいただける看護に努めています。

脳神経外科では、慢性硬膜下血腫や脳梗塞の治療を受ける方が多く入院されます。後遺症の部位や程度は様々ですが、早期からの適切なリハビリテーションが重要であるため、作業療法士や言語聴覚士、理学療法士と連携をとりながら、機能回復や残存機能の維持・向上に努めています。

眼科や歯科口腔外科では、短



期間の入院で手術を受ける方を受け入れています。

社会的な高齢化を背景に、入院される患者さんの多くも高齢です。急激な環境変化や体調不良によって気持ちが落ち着かない方も多くいます。

11階病棟では、入院期間に関わらず、全ての患者さんが安心して入院生活を送ることができるよう、安全な看護実践に努め、患者さんと共に考え、思いに沿った看護を大切にしています。

11階病棟師長 藤田由花子

編集後記

2月は旧暦月で如月(きさらぎ)と呼ばれています。名称の由来には諸説ありますが、その一つに寒さが残っているので衣(きぬ)を更に着る月であることから「衣更着(きさらぎ)」という説があるそうです。確かに2月はまだまだ冷え込む日も多く、冬の最後の寒さが厳しい季節です。それと同時に立春を迎え、暦の上では春に入る冬と春の節目でもあります。すぐそこまできている春を楽しみに待ちながら、あと少し風邪をひかないよう体調管理に気をつけていきたいと思えます。T.M



<http://www.meijohosp.jp/>

名城病院診療等のご案内



名城病院は、病院機能評価の認定を受け、よりよい医療を提供できるよう努力しています。



診療科目

内科(消化器内科/呼吸器内科/腎・糖尿病内科)、循環器センター(循環器内科/胸部心臓血管外科)、小児科/小児循環器科、外科、整形外科(脊椎脊髄センター)、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、歯科口腔外科、神経内科



診療受付時間

新患 午前 8:30~11:30
再来 午前 8:00~11:30



休診日

土・日・祝日・年末年始(12/29~1/3)



面会時間

一般 午後 0:30~8:00
ICU(家族のみ) 午後 0:30~4:30
午後 5:00~8:00



- 時間外および休日の診療は救急外来にて受付しています。事前にお電話でご相談の上、お越しください。
- 人間ドック、その他専門ドックのご相談、ご予約は総合健診センターで受付しています。



〒460-0001 名古屋市中区三の丸1丁目3番1号

052-201-5311 FAX 052-201-5318